

目次 CONTENTS

当行及び子会社等の概況

事業の内容及び組織の構成	19
企業集団の事業系統図	19
子会社等に関する事項	19
営業の概況	20

〈連結情報〉

財産の状況に関する事項

主要な経営指標等の推移（連結）	21
セグメント情報等	21
中間連結貸借対照表	22
中間連結損益計算書	22
中間連結包括利益計算書	22
中間連結株主資本等変動計算書	23
中間連結キャッシュ・フロー計算書	24
注記事項（2022年度中間連結会計期間）	25
金融再生法に基づく債権及び銀行法に基づくリスク管理債権（連結）	28

〈単体情報〉

財産の状況に関する事項

主要な経営指標等の推移（単体）・業務純益等（単体）	29
中間貸借対照表（単体）	30
中間損益計算書（単体）	30
中間株主資本等変動計算書（単体）	31
注記事項（2022年度中間会計期間）	32
金融再生法に基づく債権及び銀行法に基づくリスク管理債権（単体）	34

主要な業務の状況を示す指標

業務粗利益（単体）	35
役務取引の状況（単体）	35
特定取引収支（単体）	35
その他業務利益の内訳（単体）	35
資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り（単体）	36
総資金利鞘（単体）	36
利益率（単体）	36
受取・支払利息の増減（単体）	37
営業経費の内訳（単体）	37

預金に関する指標

預金・譲渡性預金平均残高（単体）	38
預金者別預金中間期末残高（単体）	38
定期預金の残存期間別残高（単体）	38

貸出金等に関する指標

科目別貸出金平均残高（単体）	39
中小企業等に対する貸出金（単体）	39
貸出金の預金に対する比率（単体）	39
貸出金の担保別内訳（単体）	39
支払承諾見返の担保別内訳（単体）	39
貸出金使途別残高（単体）	39
貸出金業種別内訳（単体）	40
貸出金の残存期間別残高（単体）	40
貸倒引当金（単体）	40
貸出金償却額（単体）	40
特定海外債権残高（単体）	40

有価証券に関する指標

商品有価証券平均残高（単体）	41
有価証券平均残高（単体）	41
預証率（単体）	41
有価証券の残存期間別残高（単体）	41
有価証券の時価等（単体）	42
金銭の信託の時価等（単体）	42
デリバティブ取引情報（単体）	42

株式の状況

所有者別状況	43
大株主の状況	43

自己資本に関する開示事項

自己資本の構成に関する開示事項	44
定量的な開示事項	46
索引（法定開示項目）	54

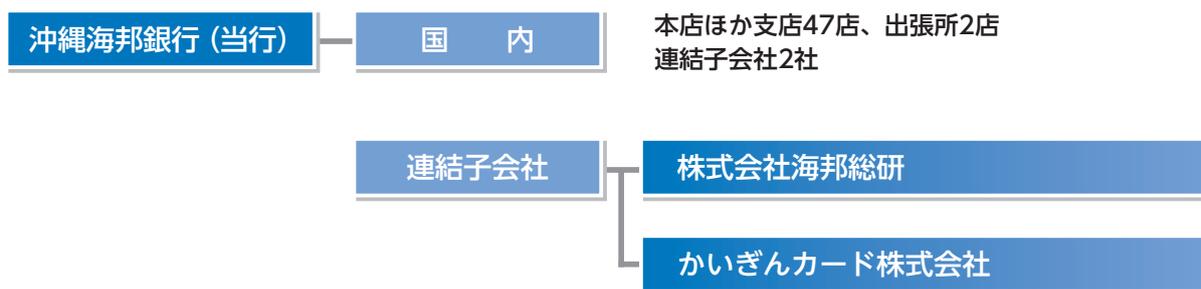
□ 本冊子は、銀行法第21条に基づいて作成した中間期ディスクロージャー誌であります。
 □ 本資料に掲載している計数は、原則として単位未満切り捨てのうえ揭示しております。
 □ 当行の中間財務諸表（中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書）及び中間連結財務諸表（中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書）について、2021年度中間期及び2022年度中間期は金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

当行及び子会社等の概況

事業の内容及び組織の構成

当行グループは、当行及び連結子会社2社で構成され、銀行業務を中心に企業経営に関するコンサルティング及び経営相談業務などの金融サービスに係る事業を行っております。

企業集団の事業系統図



(注) 店舗数について、行政上の登録店舗数は50店舗（うち出張所2店舗）となっておりますが、店舗内店舗方式（ランチ・イン・ランチ）による移転を実施したことに伴い、店舗の拠点数としては39拠点となっております。

子会社等に関する事項

会社名・所在地	資本金	業務内容	設立年月日	当行が所有する議決権割合	当行の子会社等が所有する議決権割合
株式会社海邦総研 那覇市久茂地2丁目9番12号	100百万円	コンサルティング業務	2004年4月15日	80.00%	—
かいぎんカード株式会社 那覇市久茂地2丁目9番12号	20百万円	クレジットカード業務	1993年12月9日	100.00%	—

営業の概況

経済の動き

当中間期（2022年4月1日～2022年9月30日）における我が国の景気は、新型コロナウイルス感染防止と経済活動の両立が図られる中で、全体として持ち直しの動きが続きまし。しかしながら、地政学的リスクなどを背景に、エネルギーコストや原材料価格の高騰、急激な為替変動等、企業や家計に対するインフレ圧力が強まっており、景気の先行きは不透明な状況が続きまし。

沖縄県内の景気についても、全体として緩やかに持ち直しの動きが見られております。観光関連産業では繁忙期において行動制限がなかったことで、入域観光客数は前年比増加に転じまし。しかしながら、その一方で人手やレンタカー不足など受入体制の課題が顕在化しまし。また、飲食・サービス業などについては仕入れ価格の高騰による収益の圧迫など、依然として厳しい状況が続いております。

業績

●連結決算

このような環境の中、当行は、これまで以上にお客さま支援に軸足を置いた活動を強化することを方針に掲げ、第17次中期経営計画「スピード&クイックレスポンス」（計画期間：2022年4月～2025年3月）をスタートしまし。これまで以上のスピード感を持ち、お客さまに寄り添い良質な金融サービスの提供を行うことで、様々な課題解決に向けた取組みを実践してまいりまし。

その結果、当中間連結会計期間の経営成績は次のとおりとなりまし。

経常収益は、有価証券利息配当金は増加しまし。貸出金利息収入が減少したことなどから、前年同期比59百万円減少の63億23百万円となりまし。また、経常費用は、営業経費や与信関係費用が減少したことなどから、前年同期比5億52百万円減少の51億90百万円となりまし。

結果、経常利益は、前年同期比4億93百万円増加の11億32百万円となりまし。親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比4億62百万円増加の10億43百万円となりまし。

当中間連結会計期間末の連結財政状態について、総資産は前連結会計年度末比329億72百万円減少の8,398億51百万円、純資産は前連結会計年度末比7億97百万円減少の423億75百万円となりまし。

主要勘定としては、貸出金は、事業性および個人向け、地方公共団体向け貸出がともに減少したことなどから、前連結会計年度末比84億80百万円減少の5,448億24百万円となりまし。

預金は、法人預金は減少しまし。個人預金および公金預金が増加したことなどから、前連結会計年度末比140億86百万円増加の7,568億8百万円となりまし。

有価証券は、前連結会計年度末比76億98百万円増加の1,772億57百万円となりまし。

●当行単体

預金は、法人預金は減少しまし。個人預金および公金預金が増加したことなどから、前年度末比141億16百万円増加の7,569億87百万円となりまし。

貸出金は、事業性および個人向け、地方公共団体向け貸出がともに減少したことなどから、前年度末比84億80百万円減少の5,448億24百万円となりまし。

有価証券は、前年度末比76億98百万円増加の1,773億42百万円となりまし。

経常収益は、有価証券利息配当金は増加しまし。貸出金利息収入が減少したことなどから、前年同期比41百万円減少の63億14百万円となりまし。また、経常費用は、営業経費や与信関係費用が減少したことなどから、前年同期比5億51百万円減少の51億72百万円となりまし。

その結果、経常利益は前年同期比5億10百万円増加の11億41百万円、中間純利益は前年同期比4億72百万円増加の10億48百万円となりまし。

当行が対処すべき課題等

当中間連結会計期間において、当連結会社の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定、経営方針・経営戦略等、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

〈連結情報〉 財産の状況に関する事項

主要な経営指標等の推移（連結）

項目	2020年度 中間連結会計期間 自2020年4月1日 至2020年9月30日	2021年度 中間連結会計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日	2022年度 中間連結会計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日	2020年度 自2020年4月1日 至2021年3月31日	2021年度 自2021年4月1日 至2022年3月31日
	連結経常収益	6,841百万円	6,382百万円	6,323百万円	12,959百万円
連結経常利益	1,156百万円	639百万円	1,132百万円	1,101百万円	1,019百万円
親会社株主に帰属する 中間（当期）純利益	704百万円	580百万円	1,043百万円	504百万円	729百万円
連結（中間）包括利益	541百万円	622百万円	△711百万円	861百万円	△480百万円
連結純資産額	43,589百万円	44,360百万円	42,375百万円	43,824百万円	43,173百万円
連結総資産額	827,328百万円	869,121百万円	839,851百万円	859,056百万円	872,824百万円
連結ベースの1株 当たり純資産額	12,838.95円	13,066.37円	12,482.61円	12,907.75円	12,716.81円
連結ベースの1株 当たり中間（当期）純利益	207.70円	171.14円	307.50円	148.66円	215.10円
連結ベースの潜在株式調整後 1株当たり中間（当期）純利益	—	—	—	—	—
自己資本比率	5.26%	5.10%	5.04%	5.09%	4.94%
連結自己資本比率（国内基準）	8.40%	8.50%	8.90%	8.33%	8.59%
営業活動による キャッシュ・フロー	75,058百万円	27,503百万円	△22,042百万円	83,084百万円	36,122百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	2,002百万円	△12,280百万円	△10,303百万円	△8,998百万円	△24,621百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	△187百万円	△137百万円	△109百万円	△360百万円	△260百万円
現金及び現金同等物の 中間期末（期末）残高	125,193百万円	137,131百万円	100,833百万円	122,045百万円	133,288百万円
従業員数 （外、平均臨時従業員数）	761人 (136人)	740人 (132人)	698人 (131人)	742人 (136人)	715人 (131人)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないので記載しておりません。
 2. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末非支配株主持分)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。
 3. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

セグメント情報等

●セグメント情報

- I 前中間連結会計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）
 II 当中間連結会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）
 当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

中間連結貸借対照表

資産の部

(単位：百万円)

科 目	年度別	2021年度 中間連結会計期間 (2021年9月30日)	2022年度 中間連結会計期間 (2022年9月30日)
現金預け金		137,446	101,208
コールローン及び買入手形		559	72
有価証券		159,733	177,257
貸出金		552,363	544,824
外国為替		2,177	405
その他資産		6,876	6,766
有形固定資産		8,394	8,469
無形固定資産		1,086	813
退職給付に係る資産		929	954
繰延税金資産		1	646
支払承諾見返		2,219	1,709
貸倒引当金		△2,667	△3,276
資産の部合計		869,121	839,851

負債及び純資産の部

(単位：百万円)

科 目	年度別	2021年度 中間連結会計期間 (2021年9月30日)	2022年度 中間連結会計期間 (2022年9月30日)
預金		756,700	756,808
借入金		60,000	34,000
外国為替		19	5
その他負債		4,189	4,110
賞与引当金		346	333
退職給付に係る負債		283	295
役員退職慰労引当金		214	88
睡眠預金払戻損失引当金		38	5
利息返還損失引当金		10	6
偶発損失引当金		131	112
繰延税金負債		608	-
支払承諾		2,219	1,709
負債の部合計		824,760	797,475
資本金		4,537	4,537
資本剰余金		3,219	3,219
利益剰余金		33,675	34,698
自己株式		△27	△28
株主資本合計		41,405	42,426
その他有価証券評価差額金		2,778	△178
退職給付に係る調整累計額		141	93
その他の包括利益累計額合計		2,920	△84
非支配株主持分		34	33
純資産の部合計		44,360	42,375
負債及び純資産の部合計		869,121	839,851

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	年度別	2021年度 中間連結会計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日	2022年度 中間連結会計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日
経常収益		6,382	6,323
資金運用収益		5,374	5,350
(うち貸出金利息)		(4,884)	(4,756)
(うち有価証券利息配当金)		(418)	(495)
役員取引等収益		680	641
その他業務収益		109	117
その他経常収益		217	212
経常費用		5,742	5,190
資金調達費用		54	25
(うち預金利息)		(53)	(31)
役員取引等費用		562	518
その他業務費用		2	3
営業経費		4,685	4,554
その他経常費用		438	87
経常利益		639	1,132
特別利益		280	285
固定資産処分益		2	18
移転補償金		-	266
退職給付制度改定益		277	-
特別損失		11	97
固定資産処分損		11	26
減損損失		0	71
税金等調整前中間純利益		908	1,320
法人税、住民税及び事業税		219	246
法人税等調整額		107	32
法人税等合計		326	278
中間純利益		581	1,041
非支配株主に帰属する中間純利益又は 非支配株主に帰属する中間純損失(△)		1	△1
親会社株主に帰属する中間純利益		580	1,043

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	年度別	2021年度 中間連結会計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日	2022年度 中間連結会計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日
中間純利益		581	1,041
その他の包括利益		40	△1,753
その他有価証券評価差額金		126	△1,734
退職給付に係る調整額		△86	△19
中間包括利益		622	△711
(内訳)			
親会社株主に係る中間包括利益		620	△710
非支配株主に係る中間包括利益		1	△1

中間連結株主資本等変動計算書

2021年度中間連結会計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,537	3,219	33,179	△26	40,910
当中間期変動額					
剰余金の配当			△84		△84
親会社株主に帰属する中間純利益			580		580
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)					
当中間期変動額合計	-	-	495	△0	495
当中間期末残高	4,537	3,219	33,675	△27	41,405

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	2,652	228	2,880	33	43,824
当中間期変動額					
剰余金の配当					△84
親会社株主に帰属する中間純利益					580
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	126	△86	40	1	41
当中間期変動額合計	126	△86	40	1	536
当中間期末残高	2,778	141	2,920	34	44,360

2022年度中間連結会計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,537	3,219	33,739	△27	41,469
当中間期変動額					
剰余金の配当			△84		△84
親会社株主に帰属する中間純利益			1,043		1,043
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)					
当中間期変動額合計	-	-	958	△0	957
当中間期末残高	4,537	3,219	34,698	△28	42,426

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	1,555	113	1,668	34	43,173
当中間期変動額					
剰余金の配当					△84
親会社株主に帰属する中間純利益					1,043
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額 (純額)	△1,734	△19	△1,753	△1	△1,754
当中間期変動額合計	△1,734	△19	△1,753	△1	△797
当中間期末残高	△178	93	△84	33	42,375

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

年度別	2021年度 中間連結会計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日	2022年度 中間連結会計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日
科目		
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	908	1,320
減価償却費	382	379
減損損失	0	71
貸倒引当金の増減 (△)	302	△35
偶発損失引当金の増減 (△)	3	△4
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△12	△0
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△198	△6
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	0	△5
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△9	△151
睡眠預金払戻損失引当金の増減 (△)	△4	△8
資金運用収益	△5,374	△5,350
資金調達費用	54	25
有価証券関係損益 (△)	△140	△104
為替差損益 (△は益)	△0	△0
固定資産処分損益 (△は益)	8	7
貸出金の純増 (△) 減	13,204	8,480
預金の純増減 (△)	△11,688	14,086
借入金 (劣後特約付借入金を除く) の純増減 (△)	20,000	△46,000
預け金 (日銀預け金を除く) の純増 (△) 減	△24	△27
コールローン等の純増 (△) 減	470	478
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	△532	△366
外国為替 (負債) の純増減 (△)	△50	△0
資金運用による収入	5,439	5,597
資金調達による支出	△79	△49
その他	5,083	△83
小計	27,743	△21,749
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△240	△293
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,503	△22,042
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△20,373	△24,990
有価証券の売却による収入	506	3,237
有価証券の償還による収入	7,899	11,503
有形固定資産の取得による支出	△203	△27
有形固定資産の売却による収入	4	40
有形固定資産の除却による支出	△11	△23
その他	△103	△43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,280	△10,303
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△84	△84
リース債務の返済による支出	△51	△24
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△137	△109
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	15,085	△32,455
現金及び現金同等物の期首残高	122,045	133,288
現金及び現金同等物の中間期末残高	137,131	100,833

注記事項（2022年度中間連結会計期間）

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

●連結の範囲に関する事項

連結子会社	2社
子会社名	株式会社海邦総研 かいぎんカード株式会社

●連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。
9月末日 2社

●会計方針に関する事項

- 商品有価証券の評価基準及び評価方法
商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。
- 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。
なお、その他有価証券の評価差額については、組込デリバティブを一体処理したことにより損益に反映させた額を除き、全部純資産直入法により処理しております。
- デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産（リース資産を除く）
当行の有形固定資産は、それぞれ次の方法により年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。
建 物：定額法を採用しております。
その他：定率法を採用しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建 物：50年
その他：2年～20年
連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。
 - 無形固定資産（リース資産を除く）
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。
 - リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- 貸倒引当金の計上基準
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額（以下、「未保全額」という。）を計上しております。
また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下、「破綻懸念先」という。）に係る債権のうち、未保全額が一定額以上の大口債務者については、回収可能額を個別に見積り、必要と認める額を計上し、それ以外の債務者については、未保全額に3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定したものを乗じた額を計上しております。
上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は267百万円であります。
連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。
- 賞与引当金の計上基準
賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

- 役員退職慰労引当金の計上基準
役員退職慰労引当金は、役員退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当連結会計年度末における要支給額の見込額に基づき、当中間連結会計期間末に発生している見込まれる額を計上しております。
- 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
- 利息返還損失引当金の計上基準
連結子会社のうち1社の利息返還損失引当金は、利息制限法の上限金利を超過する貸付金利息の返還請求に備えるため、過去の返還実績等を勘案した見積返還額を計上しております。
- 偶発損失引当金の計上基準
偶発損失引当金は、責任共有制度による信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来の支払見込額を計上しております。
- 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。
数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の際連結会計年度から損益処理
- 重要な収益及び費用の計上基準
顧客との契約から生じる収益は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額を認識しております。
- 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
当行の外貨建資産・負債については、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの中間決算日の為替相場により換算しております。
- 重要なヘッジ会計の方法
為替変動リスク・ヘッジ
当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。
ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
- 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。
- 税効果会計に関する事項
中間連結会計期間に係る法人税等の額及び法人税等調整額は、当行及び連結子会社の事業年度において予定している剰余金の処分による圧縮記憶積立金の積立及び取崩しを前提として、当中間連結会計期間に係る金額を計算しております。

会計方針の変更

- （時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）
「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当中間連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これにより投資信託財産について市場価格の有無、重要な解約制限の有無及び基準価額の時価とみなす取扱いの可否等の判定を行い、時価を算定することといたしました。
なお、この変更による当中間連結財務諸表への影響はありません。

追加情報

- （新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り）
当中間連結会計期間における新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度の有価証券報告書の「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載した内容から重要な変更はありません。

●中間連結貸借対照表関係

1. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、中間連結貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は貸借契約によるものに限る。）であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	950百万円
危険債権額	7,936百万円
三月以上延滞債権額	1百万円
貸出条件緩和債権額	11,056百万円
合計額	19,943百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

1,017百万円	
担保に供している資産は次のとおりであります。	
担保に供している資産	
有価証券	36,954百万円
担保資産に対応する債務	
借入金	34,000百万円
上記のほか、為替決済、公金収納等の取引の担保として、次のものを差し入れております。	
預け金	5百万円
その他資産	5,000百万円
保証金	8百万円

また、その他資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	183百万円
-----	--------

4. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	36,510百万円
うち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なもの	35,460百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定められている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

5. 有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額	8,231百万円
---------	----------

●中間連結損益計算書関係

- その他経常収益には、次のものを含んでおります。

償却債権取立益	113百万円
貸倒引当金戻入益	32百万円
株式等売却益	37百万円
- 営業経費には、次のものを含んでおります。

給料・手当	1,933百万円
退職給付費用	44百万円
計算委託料	632百万円
- その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸出金償却	21百万円
株式等売却損	11百万円
株式等償却	0百万円

4. 減損損失

営業利益の減少によるキャッシュ・フローの低下により投資額の回収が見込めなくなった以下の資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

地域	主な用途	種類	減損損失
沖縄県那覇市他	営業用店舗 3か所	建物その他	71百万円

営業用店舗について最小区分である営業店単位（出張所については母店に含めております）でグルーピングを行っており、遊休資産については各々独立した単位として取り扱っております。また、連結子会社は各社毎にグルーピングを行っております。

回収可能価額は正味売却価額により測定しており、路線価、固定資産税評価額等から処分費用見込額を控除して算出しております。

●中間連結株主資本等変動計算書関係

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度	当中間連結会計	当中間連結会計	当中間連結会計	摘要
	期首株式数	期間増加株式数	期間減少株式数	期末株式数	
発行済株式					
普通株式	3,400千株	—	—	3,400千株	
合計	3,400千株	—	—	3,400千株	
自己株式					
普通株式	7千株	0千株	—	7千株	
合計	7千株	0千株	—	7千株	

(注) 増加数の主な内訳は、次のとおりであります。
単元未満株式の買取りによる増加 120株

2. 配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	84	25	2022年 3月31日	2022年 6月24日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原質	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年11月10日 取締役会	普通株式	84	利益剰余金	25	2022年 9月30日	2022年 12月12日

●中間連結キャッシュ・フロー計算書関係

1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	101,208百万円
普通預け金	△312百万円
定期預け金	△5百万円
郵便貯金	△56百万円
現金及び現金同等物	100,833百万円

●リース取引関係

ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

- 有形固定資産
主として、店舗及びシステム関連機器であります。
- 無形固定資産
ソフトウェアであります。

2. リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「●会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

●金融商品関係

1. 金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません（注1）参照。また、現金預け金、コールローン及び買入手形、外国為替（資産・負債）、借入金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：百万円)				
	中間連結貸借 対照表計上額	時価	差額	
(1) 有価証券	175,183	175,183	—	
その他有価証券	175,183	175,183	—	
(2) 貸出金	544,824			
貸倒引当金(*)	△3,233			
	541,590	544,040	2,450	
資産計	716,774	719,224	2,450	
(1) 預金	756,808	756,835	26	
負債計	756,808	756,835	26	

(*) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 市場価格のない株式等及び組合出資金の中間連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含めておりません。

(単位：百万円)

区分	2022年9月30日
非上場株式(*1)(*2)	1,847
組合出資金(*3)	226
合計	2,074

(*1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(*2) 当中間連結会計期間において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

(*3) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、

活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
その他有価証券				
国債・地方債等	86,510	43,550	—	130,061
社債	—	35,530	—	35,530
株式	3,281	—	—	3,281
その他	6,111	199	—	6,311
資産計	95,902	79,281	—	175,183

(2) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
貸出金	—	—	544,040	544,040
資産計	—	—	544,040	544,040
預金	—	756,835	—	756,835
負債計	—	756,835	—	756,835

(*) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資産

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとして市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。

貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間、与信管理上の信用リスク区分ごとに、信用リスクを反映させて将来キャッシュ・フローを見積もり、無リスク金利で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。これらについてはレベル3の時価に分類しております。

負債

預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求に応じて直ちに支払うものは、その金額を時価としております。また、定期預金については、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いた割引現在価値により時価を算定しております。割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。これらについてはレベル2の時価に分類しております。

●ストック・オプション等関係

該当事項はありません。

●資産除去債務関係

当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	74百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—百万円
時の経過による調整額	0百万円
資産除去債務の履行による減少額	0百万円
当中間連結会計期間末残高	74百万円

●賃貸等不動産関係

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

●収益認識関係

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間	
	自 2022年4月1日	至 2022年9月30日
経常収益	6,323	
うち役員取引等収益	641	
預金・貸出業務	234	
為替業務	198	
証券関連業務	56	
代理業務	77	
その他	73	

(注) 上表には企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に基づく収益も含まれております。

●1株当たり情報

1. 1株当たり純資産額及び算定上の基礎

	当中間連結会計期間 (2022年9月30日)
1株当たり純資産額	12,482.61円
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額	42,375百万円
純資産の部の合計額から控除する金額 (うち非支配株主持分)	33百万円
普通株式に係る中間期末の純資産額	42,342百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数	3,392千株

2. 1株当たり中間純利益及び算定上の基礎

	当中間連結会計期間 自 2022年4月1日 至 2022年9月30日
1株当たり中間純利益	307.50円
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する中間純利益	1,043百万円
普通株主に帰属しない金額	—百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益	1,043百万円
普通株式の期中平均株式数	3,392千株

(注) なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式がないので記載しておりません。

●重要な後発事象

該当事項はありません。

金融再生法に基づく債権及び銀行法に基づくリスク管理債権(連結)

(単位:百万円)

区 分	2021年9月30日	2022年9月30日		
	債権残高	債権残高 (1)	担保・引当等保全額 (2)	保全率 (2)÷(1)×100
破産更生債権及びこれらに準ずる債権(A)	1,007	950	950	100.00%
危険債権(B)	6,278	7,936	7,107	89.55%
要管理債権(C)	2,833	11,056	5,588	50.54%
三月以上延滞債権	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	2,833	11,056	5,588	50.54%
合計((A)+(B)+(C))	10,118	19,943	13,646	68.42%
正常債権	544,840	526,959		

- (注) 1. 《破産更生債権及びこれらに準ずる債権》破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
2. 《危険債権》危険債権とは、債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
3. 《三月以上延滞債権》三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。
4. 《貸出条件緩和債権》貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
5. 《正常債権》正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権であります。

〈単体情報〉 財産の状況に関する事項

主要な経営指標等の推移 (単体)

年 度 別	2020年度 中間会計期間	2021年度 中間会計期間	2022年度 中間会計期間	2020年度	2021年度
	自2020年4月1日 至2020年9月30日	自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2020年4月1日 至2021年3月31日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
決 算 年 月	2020年9月	2021年9月	2022年9月	2021年3月	2022年3月
経 常 収 益	6,833百万円	6,355百万円	6,314百万円	12,897百万円	12,676百万円
経 常 利 益	1,168百万円	630百万円	1,141百万円	1,094百万円	1,004百万円
中 間 (当 期) 純 利 益	712百万円	575百万円	1,048百万円	498百万円	719百万円
資 本 金	4,537百万円	4,537百万円	4,537百万円	4,537百万円	4,537百万円
発 行 済 株 式 総 数	3,400千株	3,400千株	3,400千株	3,400千株	3,400千株
純 資 産 額	43,562百万円	44,112百万円	42,176百万円	43,495百万円	42,947百万円
総 資 産 額	827,489百万円	868,991百万円	839,838百万円	858,793百万円	872,707百万円
預 金 残 高	746,494百万円	756,866百万円	756,987百万円	768,540百万円	742,871百万円
貸 出 金 残 高	542,016百万円	552,363百万円	544,824百万円	565,568百万円	553,305百万円
有 価 証 券 残 高	136,554百万円	159,817百万円	177,342百万円	147,671百万円	169,644百万円
1株当たり中間(当期)純利益	209.96円	169.72円	309.01円	147.00円	212.13円
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益	—円	—円	—円	—円	—円
1株当たり配当額	25円	25円	25円	50円	50円
自 己 資 本 比 率	5.26%	5.07%	5.02%	5.06%	4.92%
単体自己資本比率(国内基準)	8.38%	8.49%	8.89%	8.33%	8.57%
従 業 員 数 (外、平均臨時従業員数)	749人 (136人)	729人 (132人)	689人 (131人)	731人 (136人)	706人 (131人)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないので記載していません。

2. 自己資本比率は、(中間)期末純資産の部合計を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。

3. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

業務純益等 (単体)

(単位：百万円)

種 類	2021年9月 中間会計期間	2022年9月 中間会計期間
業 務 純 益	733	992
実 質 業 務 純 益	824	992
コ ア 業 務 純 益	735	912
コ ア 業 務 純 益 (投資信託解約損益を除く。)	735	912

中間貸借対照表 (単体)

資産の部

(単位：百万円)

科 目	年度別	2021年度 中間会計期間 (2021年9月30日)	2022年度 中間会計期間 (2022年9月30日)
現金預け	金	137,446	101,207
コーポレート	金	559	72
有価証券	債券	159,817	177,342
貸出	金	552,363	544,824
外国為替	金	2,177	405
その他の資産		6,837	6,759
その他の資産		6,837	6,759
有形固定資産		8,394	8,469
無形固定資産		1,085	812
前払年金費用		756	828
繰延税金資産		-	682
支払引当金		2,219	1,709
貸倒引当金		△2,667	△3,276
資産の部合計		868,991	839,838

負債及び純資産の部

(単位：百万円)

科 目	年度別	2021年度 中間会計期間 (2021年9月30日)	2022年度 中間会計期間 (2022年9月30日)
借入金	金	756,866	756,987
外国為替	金	60,000	34,000
その他の負債		19	5
未払法人税等		4,188	4,119
リース債務		236	260
資産除去債務		223	187
その他の負債		65	74
賞与引当金		3,663	3,597
退職給付引当金		343	330
役員退職慰労引当金		313	302
睡眠預金払戻損失引当金		212	88
偶発損失引当金		38	5
繰延税金負債		131	112
支払引当金		547	-
負債の部合計		2,219	1,709
資本剰余金		824,879	797,661
資本剰余金		4,537	4,537
資本準備金		3,219	3,219
利益剰余金		3,219	3,219
利益準備金		33,603	34,625
その他利益剰余金		4,537	4,537
別途積立金		29,065	30,087
事務機械化準備金		27,895	28,395
圧縮記帳積立金		400	400
繰越利益剰余金		23	22
自己株式		746	1,270
株主資本合計		△27	△28
その他有価証券評価差額金		41,333	42,354
評価・換算差額等合計		2,778	△178
純資産の部合計		2,778	△178
負債及び純資産の部合計		44,112	42,176
		868,991	839,838

中間損益計算書 (単体)

(単位：百万円)

科 目	年度別	2021年度 中間会計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日	2022年度 中間会計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日
経常収益		6,355	6,314
資金運用収益		5,374	5,350
(うち貸出金利息)		(4,884)	(4,756)
(うち有価証券利息配当金)		(418)	(495)
役員取引等収益		650	628
その他業務収益		109	117
その他経常収益		221	216
経常費用		5,724	5,172
資金調達費用		54	25
(うち預金利息)		(53)	(31)
役員取引等費用		561	518
その他業務費用		2	3
営業経費		4,682	4,549
その他経常費用		423	75
経常利益		630	1,141
特別利益		280	285
特別損失		11	97
税引前中間純利益		899	1,329
法人税、住民税及び事業税		216	245
法人税等調整額		107	35
法人税等合計		323	280
中間純利益		575	1,048

中間株主資本等変動計算書（単体）

2021年度中間会計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計		別途積立金	事務機械化準備金	圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	4,537	3,219	3,219	4,537	27,495	400	23	655
当中間期変動額								
剰余金の配当								△84
別途積立金の積立					400			△400
圧縮記帳積立金の取崩							△0	0
中間純利益								575
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）								
当中間期変動額合計	-	-	-	-	400	-	△0	91
当中間期末残高	4,537	3,219	3,219	4,537	27,895	400	23	746

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	利益剰余金合計					
当期首残高	33,112	△26	40,843	2,652	2,652	43,495
当中間期変動額						
剰余金の配当	△84		△84			△84
別途積立金の積立	-		-			-
圧縮記帳積立金の取崩	-		-			-
中間純利益	575		575			575
自己株式の取得		△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）				126	126	126
当中間期変動額合計	490	△0	490	126	126	616
当中間期末残高	33,603	△27	41,333	2,778	2,778	44,112

2022年度中間会計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計		別途積立金	事務機械化準備金	圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	4,537	3,219	3,219	4,537	27,895	400	22	806
当中間期変動額								
剰余金の配当								△84
別途積立金の積立					500			△500
圧縮記帳積立金の取崩							△0	0
中間純利益								1,048
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）								
当中間期変動額合計	-	-	-	-	500	-	△0	463
当中間期末残高	4,537	3,219	3,219	4,537	28,395	400	22	1,270

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
	利益剰余金合計					
当期首残高	33,662	△27	41,391	1,555	1,555	42,947
当中間期変動額						
剰余金の配当	△84		△84			△84
別途積立金の積立	-		-			-
圧縮記帳積立金の取崩	-		-			-
中間純利益	1,048		1,048			1,048
自己株式の取得		△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）				△1,734	△1,734	△1,734
当中間期変動額合計	963	△0	962	△1,734	△1,734	△771
当中間期末残高	34,625	△28	42,354	△178	△178	42,176

〈単体情報〉
財産の状況に関する事項

注記事項（2022年度中間会計期間）

重要な会計方針

●商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

●有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、組込デリバティブを一体処理したことにより損益に反映させた額を除き、全部純資産直入法により処理しております。

●デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

●固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、それぞれ次の方法により年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

建 物：定額法を採用しております。

その他：定率法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：50年

その他：2年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

●引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額（以下、「未保全額」という。）を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下、「破綻懸念先」という。）に係る債権のうち、未保全額が一定額以上の大口債務者については、回収可能額を個別に見積り、必要と認める額を計上し、それ以外の債務者については、未保全額に3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定したものを乗じた額を計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は267百万円であります。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準により行っております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当事業年度末における要支給額の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると見込まれる額を計上しております。

(5) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(6) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、責任共有制度による信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来の支払見込額を計上しております。

●収益及び費用の計上基準

顧客との契約から生じる収益は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額を認識しております。

●外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債については、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

●ヘッジ会計の方法

為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジにより行っております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

●その他中間財務諸表作成のための重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

(3) 税効果会計に関する事項

中間会計期間に係る法人税等の額及び法人税等調整額は、当事業年度において予定している剰余金の処分による圧縮記帳積立金の積立て及び取崩しを前提として、当中間会計期間に係る金額を計算しております。

会計方針の変更

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これにより投資信託財産について市場価格の有無、重要な解約制限の有無及び基準価額を時価とみなす取扱いの可否等の判定を行い、時価を算定することといたしました。

なお、この変更による当中間財務諸表への影響はありません。

追加情報

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

当中間会計期間における新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度の有価証券報告書の「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載した内容から重要な変更はありません。

●中間貸借対照表関係

1. 関係会社の株式又は出資金の総額

株式 84百万円

2. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、中間貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。)であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額 950百万円

危険債権額 7,936百万円

三月以上延滞債権額 一百万円

貸出条件緩和債権額 11,056百万円

合計額 19,943百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

3. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

1,017百万円

4. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 36,954百万円

担保資産に対応する債務

借入金 34,000百万円

上記のほか、為替決済、公金収納等の取引の担保として、次のものを差し入れております。

預け金 5百万円

その他の資産 5,000百万円

保証金 8百万円

また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金 183百万円

5. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 36,510百万円

うち原契約期間が1年以内

のもの又は任意の時期に

無条件で取消可能なもの

35,460百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

●中間損益計算書関係

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

償却債権取立益 113百万円

貸倒引当金戻入益 32百万円

株式等売却益 37百万円

2. 減価償却実施額は次のとおりであります。

有形固定資産 189百万円

無形固定資産 189百万円

3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸出金償却 21百万円

株式等売却損 11百万円

株式等償却 0百万円

●有価証券関係

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注)市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額

	当中間会計期間 (2022年9月30日)
子会社株式	84百万円
関連会社株式	一百万円
合計	84百万円

●重要な後発事象

該当事項はありません。

金融再生法に基づく債権及び銀行法に基づくリスク管理債権（単体）

(単位：百万円)

区 分	2021年9月30日	2022年9月30日		
	債権残高	債権残高 (1)	担保・引当等保全額 (2)	保全率 ((2)÷(1)×100)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権 (A)	1,007	950	950	100.00%
危険債権 (B)	6,278	7,936	7,107	89.55%
要管理債権 (C)	2,833	11,056	5,588	50.54%
三月以上延滞債権	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	2,833	11,056	5,588	50.54%
合計 ((A) + (B) + (C))	10,118	19,943	13,646	68.42%
正 常 債 権	544,840	526,959		

- (注) 1. 《破産更生債権及びこれらに準ずる債権》破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
2. 《危険債権》危険債権とは、債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
3. 《三月以上延滞債権》三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。
4. 《貸出条件緩和債権》貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
5. 《正常債権》正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権であります。

◎自己査定結果と開示債権との関係（単体）

(単位：百万円)

自己査定結果：(債務者区分) 対象：総与信					金融再生法 開示債権	リスク 管理債権	引当金	保全率 (引当率)	
債務者区分 (償却後)	分類								対象：総与信
	非分類	Ⅱ分類	Ⅲ分類	Ⅳ分類					
個別貸倒引当金	破綻先 1	引当・担保・保証等 による保全部分 0	1	全額引当	破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権 950	破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権 950	0	100%	
	実質破綻先 949	引当・担保・保証等 による保全部分 429	520				71	100%	
	破綻懸念先 7,936	引当・担保・保証等 による保全部分 4,315 [2,029]	2,791	必要額を引当 829 [3,115]	危険債権 7,936	危険債権 7,936	2,286	89.55% (73.38%)	
一般貸倒引当金	要 注 意 先	要管理先 15,006	担保・保証：8,162 信用：6,844	貸倒実績率に基づく 3年間の予想損失額を 引当	要管理債権 11,056	三月以上 延滞債権 0	169	55.52% (2.47%)	
		貸出条件 緩和債権 11,056							
	その他要 注意先 136,583	28,792	107,790	貸倒実績率に基づく 1年間の予想損失額を 引当	正常債権 526,959	正常債権 526,959	419		
	正常先 386,426	386,426	287						
合計	546,903	422,976	123,098	829	0	546,903	546,903	3,233	68.59% (25.19%)

〈単体情報〉 主要な業務の状況を示す指標

業務粗利益 (単体)

(単位：百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資金運用収益	5,373	1	(0) 5,374	5,349	1	(0) 5,350
資金調達費用	54	0	(0) 54	25	0	(0) 25
資金運用収支	5,319	0	5,320	5,323	1	5,325
役務取引等収益	645	5	650	625	3	628
役務取引等費用	559	1	561	517	1	518
役務取引等収支	85	3	88	108	2	110
その他業務収益	90	18	109	83	34	117
その他業務費用	2	—	2	3	—	3
その他業務収支	88	18	107	79	34	113
業務粗利益	5,494	21	5,516	5,512	37	5,550
業務粗利益率	1.29%	1.42%	1.29%	1.26%	6.99%	1.27%

(注) 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の数値は、国内業務部門と国際業務部門間の資金貸借の利息であります。

役務取引の状況 (単体)

(単位：百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
役務取引等収益	645	5	650	625	3	628
うち預金・貸出業務	149	—	149	234	—	234
うち為替業務	229	5	234	195	3	198
うち証券関連業務	0	—	0	56	—	56
うち代理業務	99	—	99	77	—	77
うち保護預かり・貸金庫業務	5	—	5	5	—	5
うち保証業務	6	—	6	7	—	7
役務取引等費用	559	1	561	517	1	518
うち為替業務	74	1	76	55	1	56

特定取引収支 (単体)

該当ありません。

その他業務利益の内訳 (単体)

(単位：百万円)

区 分	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
その他業務収益	90	18	109	83	34	117
外国為替売買益	—	18	18	—	34	34
商品有価証券売買益	—	—	—	—	—	—
国債等債券売却益	90	—	90	83	—	83
国債等債券償還益	—	—	—	—	—	—
金融派生商品収益	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
その他業務費用	2	—	2	3	—	3
外国為替売買損	—	—	—	—	—	—
商品有価証券売買損	—	—	—	—	—	—
国債等債券売却損	—	—	—	1	—	1
国債等債券償還損	—	—	—	—	—	—
国債等債券償却	2	—	2	2	—	2
金融派生商品費用	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—

〈単体情報〉
主要な業務の状況を示す指標

資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り（単体）

（単位：百万円、％）

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計	
資金運用勘定	平均残高	(2,219) 845,669	3,069	846,520	(859) 867,667	1,081	867,888
	利 息	(0) 5,373	1	5,374	(0) 5,349	1	5,350
	利 回 り	1.26	0.06	1.26	1.22	0.33	1.22
うち貸出金	平均残高	555,221	—	555,221	545,491	—	545,491
	利 息	4,884	—	4,884	4,756	—	4,756
	利 回 り	1.75	—	1.75	1.73	—	1.73
うち商品有価証券	平均残高	—	—	—	—	—	—
	利 息	—	—	—	—	—	—
	利 回 り	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	平均残高	151,738	350	152,089	175,858	199	176,058
	利 息	417	0	418	495	0	495
	利 回 り	0.54	0.32	0.54	0.56	0.34	0.56
うちコールローン	平均残高	22,535	797	23,332	13,333	236	13,569
	利 息	3	0	4	5	1	7
	利 回 り	0.03	0.11	0.03	0.08	1.23	0.10
うち預け金	平均残高	113,954	—	113,954	132,124	—	132,124
	利 息	67	—	67	91	—	91
	利 回 り	0.11	—	0.11	0.13	—	0.13
資金調達勘定	平均残高	831,824	(2,219) 3,105	832,709	847,081	(859) 1,115	847,336
	利 息	54	(0) 0	54	25	(0) 0	25
	利 回 り	0.01	0.05	0.01	0.00	0.01	0.00
うち預金	平均残高	774,842	848	775,690	756,889	222	757,111
	利 息	53	0	53	31	0	31
	利 回 り	0.01	0.08	0.01	0.00	0.02	0.00
うち譲渡性預金	平均残高	—	—	—	—	—	—
	利 息	—	—	—	—	—	—
	利 回 り	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー	平均残高	9,508	—	9,508	26,065	—	26,065
	利 息	△4	—	△4	△10	—	△10
	利 回 り	△0.09	—	△0.09	△0.08	—	△0.08
うち借入金	平均残高	47,213	—	47,213	63,912	—	63,912
	利 息	—	—	—	—	—	—
	利 回 り	—	—	—	—	—	—

（注）（ ）内は国内業務部門と国際業務部門間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。

総資金利鞘（単体）

（単位：％）

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資金運用利回り	1.26	0.03	1.26	1.22	0.16	1.22
資金調達原価	1.10	9.71	1.13	1.04	25.05	1.07
総資金利鞘	0.16	△9.68	0.13	0.18	△24.89	0.15

利益率（単体）

（単位：％）

種 類	2021年9月 中間会計期間	2022年9月 中間会計期間
総資産経常利益率	0.14	0.25
総資産中間純利益率	0.13	0.23
純資産経常利益率	3.07	5.55
純資産中間純利益率	2.80	5.09

（注）1. 総資産経常（中間純）利益率 = $\frac{\text{経常（中間純）利益}}{\text{総資産平均残高（除く支払承諾見返）}} \times 100$

2. 純資産経常（中間純）利益率 = $\frac{\text{経常（中間純）利益}}{\text{純資産勘定平均残高（除く中間純利益）}} \times 100$

受取・支払利息の増減（単体）

（単位：百万円）

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計	
受 取 利 息	残高による増減	1,248	1	1,249	286	△2	277
	利率による増減	△1,226	△2	△1,227	△311	2	△301
	純 増 減	22	△0	21	△24	0	△23
う ち 貸 出 金	残高による増減	394	—	394	△85	—	△85
	利率による増減	△424	—	△424	△42	—	△42
	純 増 減	△29	—	△29	△127	—	△127
うち商品有価証券	残高による増減	—	—	—	—	—	—
	利率による増減	—	—	—	—	—	—
	純 増 減	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	残高による増減	111	△0	108	67	△0	67
	利率による増減	△112	△0	△110	9	0	9
	純 増 減	△0	△1	△2	77	△0	77
うちコールローン	残高による増減	0	0	0	△4	△1	△5
	利率による増減	2	0	2	6	2	8
	純 増 減	2	0	2	2	0	3
うち買入金銭債権	残高による増減	—	—	—	—	—	—
	利率による増減	—	—	—	—	—	—
	純 増 減	—	—	—	—	—	—
う ち 預 け 金	残高による増減	18	—	18	11	—	11
	利率による増減	31	—	31	12	—	12
	純 増 減	50	—	50	24	—	24
支 払 利 息	残高による増減	21	0	21	2	△0	2
	利率による増減	△40	△0	△41	△31	△0	△31
	純 増 減	△19	△0	△19	△28	△0	△29
う ち 預 金	残高による増減	11	0	11	△1	△0	△1
	利率による増減	△31	△0	△31	△20	△0	△21
	純 増 減	△19	△0	△19	△22	△0	△22
うち譲渡性預金	残高による増減	—	—	—	—	—	—
	利率による増減	—	—	—	—	—	—
	純 増 減	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー	残高による増減	△2	—	△2	△7	—	△7
	利率による増減	△0	—	△0	0	—	0
	純 増 減	△2	—	△2	△6	—	△6
う ち 借 用 金	残高による増減	—	—	—	—	—	—
	利率による増減	—	—	—	—	—	—
	純 増 減	—	—	—	—	—	—

（注）残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分する方法で記載しております。

営業経費の内訳（単体）

（単位：百万円）

科 目	2021年9月中間会計期間	2022年9月中間会計期間
給 料 ・ 手 当	1,956	1,910
退 職 給 付 費 用	35	44
福 利 厚 生 費	40	40
減 価 償 却 費	382	379
土 地 建 物 機 械 賃 借 料	201	222
営 繕 費	27	30
消 耗 品 費	107	76
給 水 光 熱 費	52	56
旅 費	4	8
通 信 費	57	56
広 告 宣 伝 費	34	32
租 税 公 課	329	321
そ の 他	1,451	1,369
計	4,682	4,549

〈単体情報〉
主要な業務の状況を示す指標

〈単体情報〉 預金に関する指標

預金・譲渡性預金平均残高 (単体)

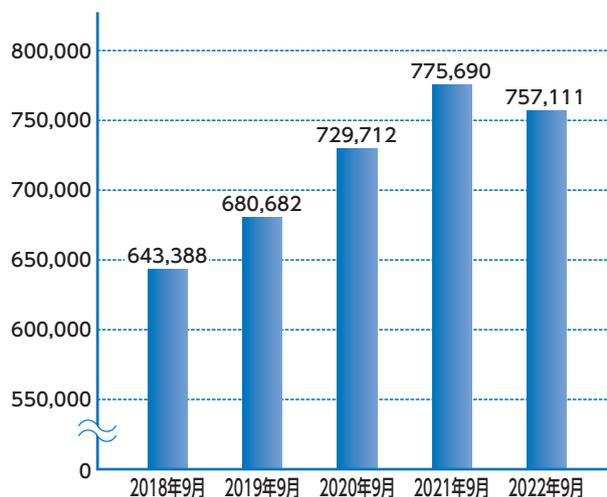
(単位：百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間			
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計	
預 金	流 動 性 預 金	551,592	—	551,592	557,826	—	557,826
	うち有利息預金	545,100	—	545,100	552,290	—	552,290
	定 期 性 預 金	221,507	—	221,507	197,536	—	197,536
	そ の 他	1,741	848	2,589	1,525	222	1,747
	合 計	774,842	848	775,690	756,889	222	757,111
譲 渡 性 預 金	—	—	—	—	—	—	
総 合 計	774,842	848	775,690	756,889	222	757,111	

- (注) 1. 流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金
 2. 定期性預金=定期預金+定期積金
 3. 国際業務の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

預金平均残高の推移

(単位：百万円)



預金者別預金中間期末残高 (単体)

(単位：百万円)

	2021年9月中間会計期間	2022年9月中間会計期間
個 人	469,196	477,292
法 人	223,223	213,256
そ の 他	64,446	66,439
合 計	756,866	756,987

定期預金の残存期間別残高 (単体)

(単位：百万円)

種 類	期 間 期 別	3カ月未満	3カ月以上 6カ月未満	6カ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上	合 計
		定 期 預 金	2021年9月30日	71,758	40,672	70,093	13,021	
	2022年9月30日	66,376	30,788	64,256	11,112	10,127	12,333	194,995
うち固定金利	2021年9月30日	71,748	40,672	70,093	13,021	9,582	13,114	218,232
定 期 預 金	2022年9月30日	66,366	30,788	64,256	11,112	10,127	12,333	194,985
うち変動金利	2021年9月30日	1	—	—	—	—	—	1
定 期 預 金	2022年9月30日	1	—	—	—	—	—	1
うちその他の	2021年9月30日	8	—	—	—	—	—	8
定 期 預 金	2022年9月30日	8	—	—	—	—	—	8

〈単体情報〉 貸出金等に関する指標

科目別貸出金平均残高 (単体)

(単位: 百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
手形貸付	21,049	—	21,049	19,243	—	19,243
証書貸付	516,368	—	516,368	507,932	—	507,932
当座貸越	16,481	—	16,481	17,130	—	17,130
割引手形	1,321	—	1,321	1,185	—	1,185
合 計	555,221	—	555,221	545,491	—	545,491

貸出金平均残高の推移

(単位: 百万円)



中小企業等に対する貸出金 (単体)

(単位: 件、百万円)

		2021年9月中間会計期間	2022年9月中間会計期間
中小企業等	貸出先件数	28,249 (99.76%)	26,986 (99.76%)
	貸出金額	495,273 (89.66%)	492,602 (90.41%)
総貸出金	貸出先件数	28,315 (100.00%)	27,050 (100.00%)
	貸出金額	552,363 (100.00%)	544,824 (100.00%)

- (注) 1. 本表の貸出金残高には、海外店分及び特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。
 2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。
 3. () 内は構成比です。

貸出金の預金に対する比率 (単体)

(単位: 百万円)

区 分	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
貸出金 (中間期末)	552,363	—	552,363	544,824	—	544,824
預 金 (中間期末)	756,252	613	756,866	756,850	137	756,987
預貸率 (中間期末)	73.03%	—	72.98%	71.98%	—	71.97%
預貸率 (期中平均)	71.65%	—	71.57%	72.07%	—	72.04%

貸出金の担保別内訳 (単体)

(単位: 百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間	2022年9月中間会計期間
有価証券	673	673
債権	2,184	2,080
商不	—	—
不動産	343,326	342,071
その他	129	283
計	346,313	345,108
保証	102,793	101,503
信用	103,256	98,213
合計	552,363	544,824
(うち劣後特約貸出金)	(500)	(500)

支払承諾見返の担保別内訳 (単体)

(単位: 百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間	2022年9月中間会計期間
有価証券	—	—
債権	—	—
商不	—	—
不動産	50	50
その他	—	—
計	50	50
保証	0	0
信用	2,168	1,658
合計	2,219	1,709

貸出金用途別残高 (単体)

(単位: 百万円)

区 分	2021年9月中間会計期間	2022年9月中間会計期間
設備資金	361,647 (65.47%)	358,635 (65.82%)
運転資金	190,716 (34.52%)	186,189 (34.17%)
合 計	552,363 (100.00%)	544,824 (100.00%)

(注) () 内は構成比です。

貸出金業種別内訳 (単体)

(単位：百万円)

業 種 別	2021年9月30日		2022年9月30日	
	貸出金残高	構 成 比	貸出金残高	構 成 比
国内店分 (除く特別国際金融取引勘定分)	552,363	100.00 %	544,824	100.00 %
製造業	17,187	3.11	17,788	3.26
農業、林業	2,024	0.36	2,144	0.39
漁業	362	0.06	382	0.07
鉱業、採石業、砂利採取業	265	0.04	289	0.05
建設業	39,185	7.09	39,297	7.21
電気・ガス・熱供給・水道業	5,682	1.02	5,399	0.99
情報通信業	2,350	0.42	3,006	0.55
運輸業、郵便業	11,264	2.03	10,854	1.99
卸売業	10,427	1.88	10,538	1.93
小売業	31,365	5.67	31,930	5.86
金融業、保険業	11,778	2.13	10,647	1.95
不動産業	230,428	41.71	226,713	41.61
物品賃貸業	8,195	1.48	7,676	1.40
学術研究、専門・技術サービス業	5,606	1.01	5,370	0.98
宿泊業	12,487	2.26	14,101	2.58
飲食業	10,869	1.96	10,713	1.96
生活関連サービス業、娯楽業	11,748	2.12	11,087	2.03
教育、学習支援業	2,644	0.47	2,468	0.45
医療・福祉	24,475	4.43	23,208	4.25
その他のサービス	7,310	1.32	8,689	1.59
地方公共団体	30,158	5.45	27,448	5.03
その他	76,543	13.85	75,068	13.77
海外店分及び特別国際金融取引勘定分	—	— %	—	— %
政 府 等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
商工その他	—	—	—	—
合 計	552,363		544,824	

貸出金の残存期間別残高 (単体)

(単位：百万円)

種 類	期 間 期 別	期 間					期間の定め のないもの	合 計
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超		
貸 出 金	2021年9月30日	34,186	40,372	36,595	36,643	388,124	16,441	552,363
	2022年9月30日	41,689	35,350	36,906	31,799	381,101	17,978	544,824
うち変動金利	2021年9月30日	9,538	15,046	18,398	18,176	325,071	3,965	390,197
	2022年9月30日	11,654	12,611	17,406	16,621	321,857	5,304	385,456
うち固定金利	2021年9月30日	24,648	25,325	18,196	18,466	63,053	12,475	162,166
	2022年9月30日	30,035	22,738	19,499	15,177	59,244	12,673	159,368

貸倒引当金 (単体)

(単位：百万円)

区 分	2021年度中間会計期間					2022年度中間会計期間				
	期首残高	当中間期 増加額	当中間期減少額		中間期末 残高	期首残高	当中間期 増加額	当中間期減少額		中間期末 残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	525	616	—	*525	616	834	875	—	*834	875
個別貸倒引当金	1,838	2,051	0	*1,837	2,051	2,478	2,400	3	*2,475	2,400

(注) *一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金の当中間期減少額(その他)は、税法規定の洗替による戻入額であります。

貸出金償却額 (単体)

(単位：百万円)

	2021年度中間会計期間	2022年度中間会計期間
貸出金償却額	17	21

特定海外債権残高 (単体)

該当ありません。

〈単体情報〉 有価証券に関する指標

商品有価証券平均残高 (単体)

(単位：百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間	2022年9月中間会計期間
商 品 国 債	—	—
商 品 地 方 債	—	—
商 品 政 府 保 証 債	—	—
そ の 他 の 商 品 有 価 証 券	—	—
合 計	—	—

有価証券平均残高 (単体)

(単位：百万円)

種 類	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
国 債	72,804	—	72,804	91,061	—	91,061
地 方 債	32,336	—	32,336	39,453	—	39,453
短 期 社 債	—	—	—	—	—	—
社 債	40,350	—	40,350	35,785	—	35,785
株 式	3,499	—	3,499	4,385	—	4,385
そ の 他 の 証 券	2,747	350	3,097	5,172	199	5,372
うち外国証券	—	350	350	—	199	199
うち外国株式	—	—	—	—	—	—
合 計	151,738	350	152,089	175,858	199	176,058

預証率 (単体)

(単位：百万円)

区 分	2021年9月中間会計期間			2022年9月中間会計期間		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
有 価 証 券	159,517	300	159,817	177,142	199	177,342
預 金	756,252	613	756,866	756,850	137	756,987
預証率						
中間期末残高	21.09%	48.88%	21.11%	23.40%	145.25%	23.42%
期中平均	19.58%	41.30%	19.60%	23.23%	90.04%	23.25%

有価証券の残存期間別残高 (単体)

(単位：百万円)

種 類	期 間 期 別	期 間						期間の定め のないもの	合 計
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超		
国 債	2021年9月30日	9,056	16,011	4,075	3,030	8,330	37,891	—	78,395
	2022年9月30日	11,338	8,591	—	6,375	13,364	46,840	—	86,510
地 方 債	2021年9月30日	6,443	6,218	13,226	5,298	92	115	—	31,394
	2022年9月30日	1,736	18,158	21,823	1,657	91	83	—	43,550
短 期 社 債	2021年9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
	2022年9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
社 債	2021年9月30日	9,630	12,593	13,777	1,278	2,240	471	—	39,993
	2022年9月30日	6,044	14,136	11,824	1,699	1,365	459	—	35,530
株 式	2021年9月30日	—	—	—	—	—	—	4,903	4,903
	2022年9月30日	—	—	—	—	—	—	5,213	5,213
そ の 他 の 証 券	2021年9月30日	100	200	—	—	—	—	4,830	5,130
	2022年9月30日	199	—	—	—	—	—	6,337	6,537
うち投資信託	2021年9月30日	—	—	—	—	—	—	4,604	4,604
	2022年9月30日	—	—	—	—	—	—	6,111	6,111
うち外国証券	2021年9月30日	100	200	—	—	—	—	—	300
	2022年9月30日	199	—	—	—	—	—	—	199
うち外国株式	2021年9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
	2022年9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—

有価証券の時価等（単体）

1. 満期保有目的の債券

該当ありません。

2. その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2021年度中間会計期間 (2021年9月30日現在)			2022年度中間会計期間 (2022年9月30日現在)		
		中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	2,728	1,678	1,050	2,693	1,855	838
	債券	105,268	104,266	1,001	43,739	43,454	285
	国債	70,182	69,491	690	26,243	26,098	145
	地方債	13,140	13,011	128	9,049	8,995	54
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	21,945	21,762	182	8,446	8,361	85
その他	4,711	2,712	1,998	4,693	3,102	1,591	
小計	112,708	108,656	4,051	51,127	48,412	2,715	
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	441	469	△27	587	630	△42
	債券	44,515	44,608	△92	121,851	124,757	△2,905
	国債	8,213	8,260	△47	60,266	62,935	△2,669
	地方債	18,254	18,264	△9	34,501	34,601	△99
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	18,047	18,083	△35	27,083	27,220	△136
その他	193	194	△1	1,617	1,670	△53	
小計	45,150	45,271	△121	124,056	127,058	△3,002	
合 計		157,858	153,928	3,929	175,183	175,471	△287

(注) 中間貸借対照表計上額は、当中間会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

3. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落している場合、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当中間会計期間における減損処理はございません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、時価が取得原価に比べ50%以上下落している場合は、著しい下落と判断し、30%以上50%未満下落している場合は、過去一定期間の時価の状況や発行会社の信用リスク等を勘案し判定しております。

金銭の信託の時価等（単体）

該当ありません。

デリバティブ取引情報（単体）

該当ありません。

〈単体情報〉株式の状況

所有者別状況

(2022年9月末現在)

区 分	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法 人	外国法人等		個人その他	計	単 元 未 満 株式の状況
					個人以外	個 人			
株主数(人)	2	22	—	251	—	10	1,909	2,194	—
所有株式数 (単元:100株)	10	8,047	—	8,363	—	10	17,255	33,685	31,500株
割 合 (%)	0.02	23.88	—	24.82	—	0.02	51.22	100.00	—

大株主の状況

(2022年9月末現在)

氏 名 又 は 名 称	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の 総数に対する所有株式数の割合 (%)
西 平 経 史	257	7.57
沖 縄 土 地 住 宅 株 式 会 社	205	6.06
沖 縄 海 邦 銀 行 行 員 持 株 会	164	4.85
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	137	4.06
株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行	137	4.05
沖 縄 電 力 株 式 会 社	134	3.96
比 嘉 良 雄	127	3.76
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	117	3.45
大 同 火 災 海 上 保 険 株 式 会 社	101	2.98
中 央 産 業 株 式 会 社	66	1.95
計	1,449	42.73

自己資本に関する開示事項

自己資本の構成に関する開示事項

単体開示事項

●自己資本の構成及び自己資本比率

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下、「告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

自己資本の構成に関する開示事項

(単位：百万円)

項 目	2022年9月30日	2021年9月30日
コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	42,269	41,248
うち、資本金及び資本剰余金	7,756	7,756
うち、利益剰余金の額	34,625	33,603
うち、自己株式の額 (△)	28	27
うち、社外流出予定額 (△)	84	84
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	875	616
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	875	616
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格日非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格日資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	43,145	41,864
コア資本に係る調整項目 (2)		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	812	1,085
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	812	1,085
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	828	756
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る10%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	1,640	1,842
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	41,504	40,022
リスク・アセット (3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	444,468	449,159
資産（オン・バランス）項目	443,098	447,537
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額の合計	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オフ・バランス取引等項目	1,369	1,622
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	—	—
中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	22,305	22,108
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセットの額の合計額 (ニ)	466,773	471,268
自己資本比率		
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	8.89%	8.49%

連結開示事項

●連結自己資本比率の構成及び連結自己資本比率

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下、「告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

自己資本の構成に関する開示事項

(単位：百万円)

項 目	2022年9月30日	2021年9月30日
コア資本に係る基礎項目 (1)		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	42,342	41,320
うち、資本金及び資本剰余金	7,756	7,756
うち、利益剰余金の額	34,698	33,675
うち、自己株式の額 (△)	28	27
うち、社外流出予定額 (△)	84	84
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	93	141
うち、為替換算調整勘定	—	—
うち、退職給付に係るものの額	93	141
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	—	—
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	875	616
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	875	616
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	6	10
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	43,318	42,089
コア資本に係る調整項目 (2)		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。）の額の合計額	813	1,086
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るもの以外の額	813	1,086
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	954	929
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る10%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライセンスに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライセンスに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	1,767	2,016
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	41,550	40,072
リスク・アセット (3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	444,295	448,929
資産（オン・バランス）項目	442,926	447,307
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの合計	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オフ・バランス取引等項目	1,369	1,622
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	—	—
中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	22,417	22,242
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセットの額の合計額 (ニ)	466,713	471,172
連結自己資本比率		
連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	8.90%	8.50%

定量的な開示事項

- その他金融機関等（自己資本比率告示第二十九条第六項第一号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額

該当ありません。

●自己資本の充実度に関する事項

総所要自己資本額

〈単体〉

(単位：百万円)

項 目	2021年9月30日	2022年9月30日
信用リスク(標準的手法)	17,966	17,778
オペレーショナル・リスク(基礎的手法)	884	892
合 計	18,850	18,670

〈連結〉

(単位：百万円)

項 目	2021年9月30日	2022年9月30日
信用リスク(標準的手法)	17,957	17,771
オペレーショナル・リスク(基礎的手法)	889	896
合 計	18,846	18,668

信用リスクに対する所要自己資本の額
(単体)

(単位：百万円)

項 目	2021年9月30日		2022年9月30日	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
【資産（オン・バランス）項目】				
現金	—	—	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	200	8	200	8
我が国の政府関係機関向け	863	34	785	31
地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	999	39	528	21
法人等向け	127,711	5,108	127,545	5,101
中小企業等向け及び個人向け	84,650	3,386	81,221	3,248
抵当権付住宅ローン	7,854	314	7,571	302
不動産取得等事業向け	200,706	8,028	198,373	7,934
三月以上延滞等	758	30	414	16
取立未済手形	5	0	5	0
信用保証協会等による保証付	5,160	206	5,332	213
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—
出資等	6,713	268	9,218	368
上記以外	11,913	476	11,903	476
(うち他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通株式等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のもにに係るエクスポージャー)	1,000	40	1,000	40
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	1,508	60	1,432	57
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー)	—	—	—	—
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段のうち、その他外部TLAC関連調達手段に係る五パーセント基準額を上回る部分に係るエクスポージャー)	—	—	—	—
(うち上記以外のエクスポージャー)	9,405	376	9,471	378
証券化	—	—	—	—
(うちSTC要件適用分)	—	—	—	—
(うち非STC要件適用分)	—	—	—	—
再証券化	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—
他の金融機関等の対象資本等調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	—	—	—	—
資産（オン・バランス）計	447,537	17,901	443,098	17,723
【オフ・バランス取引項目】				
任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	—	—	—	—
原契約期間が1年以下のコミットメント	—	—	—	—
短期の貿易関連偶発債務	—	—	—	—
特定の取引に係る偶発債務	670	26	827	33
NIF又はRUF	—	—	—	—
原契約期間が1年超のコミットメント	525	21	525	21
内部格付手法におけるコミットメント	—	—	—	—
信用供与に直接的に代替する偶発債務	427	17	16	0
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等(控除後)	—	—	—	—
先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	—	—	—	—
有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	—	—	—	—
派生商品取引及び長期決済期間取引	—	—	—	—
未決済取引	—	—	—	—
証券化エクスポージャーに係る適格なサービサー・キャッシュ・アドバンスの信用供与枠のうち未実行部分	—	—	—	—
上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	—	—	—	—
オフ・バランス取引等 計	1,622	64	1,369	54
合計	449,159	17,966	444,468	17,778

(注) 所要自己資本額 = リスク・アセット×4%

(連結)

(単位：百万円)

項 目	2021年9月30日		2022年9月30日	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
【資産（オン・バランス）項目】				
現金	—	—	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	200	8	200	8
我が国の政府関係機関向け	863	34	785	31
地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	999	39	528	21
法人等向け	127,712	5,108	127,546	5,101
中小企業等向け及び個人向け	84,650	3,386	81,221	3,248
抵当権付住宅ローン	7,854	314	7,571	302
不動産取得等事業向け	200,706	8,028	198,373	7,934
三月以上延滞等	758	30	414	16
取立未済手形	5	0	5	0
信用保証協会等による保証付	5,160	206	5,332	213
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—
出資等	6,629	265	9,133	365
上記以外	11,766	470	11,814	472
(うち他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通株式等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)	1,000	40	1,000	40
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	1,361	54	1,343	53
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー)	—	—	—	—
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段のうち、その他外部TLAC関連調達手段に係る五パーセント基準額を上回る部分に係るエクスポージャー)	—	—	—	—
(うち上記以外のエクスポージャー)	9,405	376	9,471	378
証券化	—	—	—	—
(うちSTC要件適用分)	—	—	—	—
(うち非STC要件適用分)	—	—	—	—
再証券化	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	—	—	—	—
資産（オン・バランス）計	447,307	17,892	442,926	17,717
【オフ・バランス取引項目】				
任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	—	—	—	—
原契約期間が1年以下のコミットメント	—	—	—	—
短期の貿易関連偶発債務	—	—	—	—
特定の取引に係る偶発債務	670	26	827	33
NIF又はRUF	—	—	—	—
原契約期間が1年超のコミットメント	525	21	525	21
内部格付手法におけるコミットメント	—	—	—	—
信用供与に直接的に代替する偶発債務	427	17	16	0
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等(控除後)	—	—	—	—
先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	—	—	—	—
有価証券の買付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	—	—	—	—
派生商品取引及び長期決済期間取引	—	—	—	—
未決済取引	—	—	—	—
証券化エクスポージャーに係る適格なサービサー・キャッシュ・アドバンスの信用供与枠のうち未実行部分	—	—	—	—
上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	—	—	—	—
オフ・バランス取引等 計	1,622	64	1,369	54
合計	448,929	17,957	444,295	17,771

(注) 所要自己資本額 = リスク・アセット×4%

●信用リスクに関する事項（リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く）

信用リスクに関するエクスポージャー及び三月以上延滞エクスポージャーの中間期末残高
（単体）

（単位：百万円）

	2021年9月30日					2022年9月30日				
	信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高				三月以上延滞 エクスポージャー の中間期末残高	信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高				三月以上延滞 エクスポージャー の中間期末残高
	貸付 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債権 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債券	デリバティブ 取引		貸付 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債権 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債券	デリバティブ 取引	
国内計	837,518	554,958	282,559	—	895	815,781	546,903	268,878	—	373
国外計	300	—	300	—	—	200	—	200	—	—
地域別合計	837,818	554,958	282,859	—	895	815,981	546,903	269,078	—	373
製造業	28,568	17,213	11,354	—	—	28,511	17,815	10,695	—	—
農業、林業	2,027	2,027	—	—	1	2,147	2,147	—	—	—
漁業	363	363	—	—	—	383	383	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	265	265	—	—	—	289	289	—	—	—
建設業	40,931	39,651	1,280	—	8	41,297	40,016	1,280	—	19
電気・ガス・熱供給・水道業	9,580	6,498	3,082	—	—	9,146	5,403	3,742	—	—
情報通信業	4,590	2,350	2,239	—	—	5,002	3,007	1,995	—	—
運輸業、郵便業	15,462	11,394	4,068	—	—	14,237	10,972	3,265	—	—
卸売業、小売業	44,535	42,234	2,300	—	12	45,108	42,863	2,244	—	0
金融業、保険業	154,529	12,583	141,945	—	—	115,668	11,462	104,206	—	—
不動産業、物品賃貸業	244,625	238,767	5,857	—	700	240,768	234,568	6,199	—	168
その他サービス	75,737	74,790	946	—	128	76,096	75,393	703	—	121
国・地方公共団体	139,302	30,163	109,139	—	—	160,203	27,452	132,751	—	—
個人	76,653	76,653	—	—	44	75,127	75,127	—	—	63
その他	645	—	645	—	—	1,993	—	1,993	—	—
業種別合計	837,818	554,958	282,859	—	895	815,981	546,903	269,078	—	373
1年以下	71,377	46,206	25,170	—	202	71,395	52,103	19,291	—	15
1年超3年以下	79,750	44,995	34,755	—	7	84,817	44,014	40,802	—	4
3年超5年以下	68,739	37,802	30,936	—	2	70,719	36,954	33,764	—	119
5年超7年以下	46,079	36,542	9,536	—	145	41,368	31,602	9,766	—	22
7年超10年以下	79,905	69,358	10,547	—	11	82,510	67,609	14,901	—	17
10年超	357,521	319,154	38,366	—	523	363,941	313,909	50,032	—	191
期間の定めのないもの	134,445	898	133,546	—	2	101,229	710	100,519	—	2
残存期間別合計	837,818	554,958	282,859	—	895	815,981	546,903	269,078	—	373

- (注) 1. オフ・バランス取引はデリバティブ取引を除く。
 2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポージャー、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%以上であるエクスポージャー。
 3. 債券は、預け金・コールローン・債券を除く有価証券（株式・投資信託）を含む。

（連結）

（単位：百万円）

	2021年9月30日					2022年9月30日				
	信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高				三月以上延滞 エクスポージャー の中間期末残高	信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高				三月以上延滞 エクスポージャー の中間期末残高
	貸付 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債権 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債券	デリバティブ 取引		貸付 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債権 （貸付以外の オフ・バランス取引 を除く）	債券	デリバティブ 取引	
国内計	837,433	554,958	282,474	—	895	815,697	546,903	268,793	—	373
国外計	300	—	300	—	—	200	—	200	—	—
地域別合計	837,733	554,958	282,774	—	895	815,897	546,903	268,993	—	373
製造業	28,568	17,213	11,354	—	—	28,511	17,815	10,695	—	—
農業、林業	2,027	2,027	—	—	1	2,147	2,147	—	—	—
漁業	363	363	—	—	—	383	383	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	265	265	—	—	—	289	289	—	—	—
建設業	40,931	39,651	1,280	—	8	41,297	40,016	1,280	—	19
電気・ガス・熱供給・水道業	9,580	6,498	3,082	—	—	9,146	5,403	3,742	—	—
情報通信業	4,590	2,350	2,239	—	—	5,002	3,007	1,995	—	—
運輸業、郵便業	15,462	11,394	4,068	—	—	14,237	10,972	3,265	—	—
卸売業、小売業	44,535	42,234	2,300	—	12	45,108	42,863	2,244	—	0
金融業、保険業	154,524	12,583	141,940	—	—	115,663	11,462	104,201	—	—
不動産業、物品賃貸業	244,625	238,767	5,857	—	700	240,768	234,568	6,199	—	168
その他サービス	75,657	74,790	866	—	128	76,016	75,393	623	—	121
国・地方公共団体	139,302	30,163	109,139	—	—	160,203	27,452	132,751	—	—
個人	76,653	76,653	—	—	44	75,127	75,127	—	—	63
その他	645	—	645	—	—	1,993	—	1,993	—	—
業種別合計	837,733	554,958	282,774	—	895	815,897	546,903	268,993	—	373
1年以下	71,377	46,206	25,170	—	202	71,395	52,103	19,291	—	15
1年超3年以下	79,750	44,995	34,755	—	7	84,817	44,014	40,802	—	4
3年超5年以下	68,739	37,802	30,936	—	2	70,719	36,954	33,764	—	119
5年超7年以下	46,079	36,542	9,536	—	145	41,368	31,602	9,766	—	22
7年超10年以下	79,905	69,358	10,547	—	11	82,510	67,609	14,901	—	17
10年超	357,521	319,154	38,366	—	523	363,941	313,909	50,032	—	191
期間の定めのないもの	134,360	898	133,461	—	2	101,144	710	100,434	—	2
残存期間別合計	837,733	554,958	282,774	—	895	815,897	546,903	268,993	—	373

- (注) 1. オフ・バランス取引はデリバティブ取引を除く。
 2. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポージャー、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%以上であるエクスポージャー。
 3. 債券は、預け金・コールローン・債券以外の有価証券（株式・投資信託）を含む。

個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳
(単体)

(単位：百万円)

	2021年9月30日			2022年9月30日		
	期首残高	当中間期増減額	中間期末残高	期首残高	当中間期増減額	中間期末残高
国内計	1,838	212	2,051	2,478	△77	2,400
国外計	—	—	—	—	—	—
地域別合計	1,838	212	2,051	2,478	△77	2,400
製造業	8	10	18	10	0	11
農業、林業	—	0	0	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	73	△0	72	80	2	83
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	1	△1	—
情報通信業	—	—	—	—	—	—
運輸業、郵便業	3	0	3	3	0	3
卸売業、小売業	286	△10	276	266	58	324
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—
不動産業、物品賃貸業	599	197	796	939	△96	843
その他サービス	820	14	834	1,116	△47	1,068
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個人	5	0	6	15	7	22
その他	43	—	43	43	△0	42
業種別合計	1,838	212	2,051	2,478	△77	2,400

〈連結〉

(単位：百万円)

	2021年9月30日			2022年9月30日		
	期首残高	当中間期増減額	中間期末残高	期首残高	当中間期増減額	中間期末残高
国内計	1,838	212	2,051	2,478	△77	2,400
国外計	—	—	—	—	—	—
地域別合計	1,838	212	2,051	2,478	△77	2,400
製造業	8	10	18	10	0	11
農業、林業	—	0	0	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建設業	73	△0	72	80	2	83
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	1	△1	—
情報通信業	—	—	—	—	—	—
運輸業、郵便業	3	0	3	3	0	3
卸売業、小売業	286	△10	276	266	58	324
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—
不動産業、物品賃貸業	599	197	796	939	△96	843
その他サービス	820	14	834	1,116	△47	1,068
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個人	5	0	6	15	7	22
その他	43	—	43	43	△0	42
業種別合計	1,838	212	2,051	2,478	△77	2,400

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中増減額
(単体)

(単位：百万円)

		期首残高	当中間期増減額	中間期末残高
一般貸倒引当金	2021年9月30日	525	90	616
	2022年9月30日	834	41	875
個別貸倒引当金	2021年9月30日	1,838	212	2,051
	2022年9月30日	2,478	△77	2,400
特定海外債権引当勘定	2021年9月30日	—	—	—
	2022年9月30日	—	—	—
合計	2021年9月30日	2,364	302	2,667
	2022年9月30日	3,312	△35	3,276

〈連結〉

(単位：百万円)

		期首残高	当中間期増減額	中間期末残高
一般貸倒引当金	2021年9月30日	525	90	616
	2022年9月30日	834	41	875
個別貸倒引当金	2021年9月30日	1,838	212	2,051
	2022年9月30日	2,478	△77	2,400
特定海外債権引当勘定	2021年9月30日	—	—	—
	2022年9月30日	—	—	—
合計	2021年9月30日	2,364	302	2,667
	2022年9月30日	3,312	△35	3,276

業種別の貸出金償却の額
(単体)

(単位：百万円)

	2021年9月30日	2022年9月30日
	貸出金償却	貸出金償却
製 造 業	16	—
農 業、林 業	—	—
漁 業	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—
建 設 業	—	0
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情 報 通 信 業	—	—
運 輸 業、郵 便 業	—	—
卸 売 業、小 売 業	—	15
金 融 業、保 険 業	—	—
不 動 産 業、物 品 賃 貸 業	—	—
そ の 他 サ ー ビ ス	—	—
国 ・ 地 方 公 共 団 体	—	—
個 人	—	5
そ の 他	0	—
業 種 別 計	17	21

〈連結〉

(単位：百万円)

	2021年9月30日	2022年9月30日
	貸出金償却	貸出金償却
製 造 業	16	—
農 業、林 業	—	—
漁 業	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—
建 設 業	—	0
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情 報 通 信 業	—	—
運 輸 業、郵 便 業	—	—
卸 売 業、小 売 業	—	15
金 融 業、保 険 業	—	—
不 動 産 業、物 品 賃 貸 業	—	—
そ の 他 サ ー ビ ス	—	—
国 ・ 地 方 公 共 団 体	—	—
個 人	—	5
そ の 他	0	—
業 種 別 計	17	21

リスク・ウエイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高及び1,250%のリスク・ウエイトが適用されるエクスポージャーの額
(単体)

(単位：百万円)

	信用リスク削減手法勘案後のエクスポージャー額			
	2021年9月30日		2022年9月30日	
	格付適用	格付不適用	格付適用	格付不適用
0%	240,063	30,470	227,177	27,724
10%	6,350	55,970	4,485	58,828
20%	13,089	418	13,565	442
35%	—	22,477	—	21,663
50%	27,934	59	24,062	0
75%	—	115,016	—	110,256
100%	9,345	313,487	10,742	313,636
150%	—	437	—	193
350%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
合 計	296,783	538,337	280,033	532,746

- (注) 1. 「格付適用」とは、リスク・ウエイト算定にあたり、格付を適用しているエクスポージャーであり、「格付不適用」とは、格付を適用していないエクスポージャー。なお、格付は適格格付機関が付与しているものに限る。
2. 「格付適用」エクスポージャーには、原債務者の格付を適用しているエクスポージャーに加え、保証人の格付を付与しているエクスポージャーや、ソブリン格付に準拠したリスク・ウエイトを適用しているエクスポージャーが含まれる。

●信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額
(単体)

(単位：百万円)

	2021年9月30日	2022年9月30日
適格金融資産担保が適用されたエクスポージャー	4,515	4,318
保証またはクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャー	—	—

(注) 関連子会社については、信用リスク削減手法を採用していないため、「連結」の記載は省略。

●派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項 (単体、連結)

イ. 与信相当額の算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式にて算出しております。

ロ. 派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を検討する前の与信相当額
(派生商品取引にあっては、取引区分ごとの与信相当額を含む)

(単位：百万円)

	2021年9月30日	2022年9月30日
グロス再構築コストの額	—	—
与信相当額 (担保による信用リスク削減効果勘案前)	—	—
派生商品取引	—	—
外国為替関連取引	—	—
金利関連取引	—	—
株式関連取引	—	—
その他取引	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—
与信相当額 (担保による信用リスク削減効果勘案後)	—	—

(注) 1. 原契約期間が5日以内の外国為替関連取引の与信相当額は除く。

2. 与信相当額 (担保による信用リスク削減効果勘案前) は、再構築コストおよびグロスのアドオン額 (想定元本額に金融庁告示第19号第79条に定める掛け目を乗じた額) の合計額。

3. 担保の種類別の額 派生商品取引に係る担保は該当なし。

●証券化エクスポージャーに関する事項 (単体、連結)

イ. 銀行 (連結グループ) がオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

当行 (連結グループ) がオリジネーターである証券化エクスポージャーはございません。

ロ. 銀行 (連結グループ) が投資家である証券化エクスポージャーに関する事項

当行 (連結グループ) が投資家として保有する証券化エクスポージャーはございません。

●出資等または株式等エクスポージャーに関する事項

イ. 出資等の中間貸借対照表計上額及び時価

(単体)

(単位：百万円)

	2021年9月30日			2022年9月30日		
	中間貸借対照表計上額	時	価	中間貸借対照表計上額	時	価
上場している出資等	7,774			9,392		
上記に該当しない出資等	1,959			2,158		
合 計	9,734	9,734		11,551	11,551	

(連結)

(単位：百万円)

	2021年9月30日			2022年9月30日		
	中間貸借対照表計上額	時	価	中間貸借対照表計上額	時	価
上場している出資等	7,774			9,392		
上記に該当しない出資等	1,874			2,074		
合 計	9,649	9,649		11,466	11,466	

(注) 連結については、関連会社株式を控除し、関連会社保有株式を加算して算出しております。

ロ. 出資等の売却及び償却に伴う損益の額

(単体、連結)

(単位：百万円)

	2021年9月30日	2022年9月30日
売却損益額	165	107
償却額	△24	△3

ハ. 中間貸借対照表で認識され、中間損益計算書で認識されない評価損益の額

二. 中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益の額

(単体、連結)

(単位：百万円)

	2021年9月30日	2022年9月30日
中間貸借対照表で認識され、中間損益計算書で認識されない評価損益の額	3,020	2,333
中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—

- リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額
該当ありません。

●金利リスクに関する事項〈単体、連結〉

IRRBB 1:金利リスク
〈単体〉

(単位:百万円)

項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当中間期末	前中間期末	当中間期末	前中間期末
1	上方パラレルシフト	7,852	6,768	0	0
2	下方パラレルシフト	0	0	2,679	2,509
3	ステイープ化	8,119	7,082		
4	フラット化	0	0		
5	短期金利上昇	0	0		
6	短期金利低下	687	670		
7	最大値	8,119	7,082	2,679	2,509
		ホ		ヘ	
		当中間期末		前中間期末	
8	自己資本の額	41,504		40,022	

〈連結〉

(単位:百万円)

項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当中間期末	前中間期末	当中間期末	前中間期末
1	上方パラレルシフト	7,852	6,768	0	0
2	下方パラレルシフト	0	0	2,679	2,509
3	ステイープ化	8,119	7,082		
4	フラット化	0	0		
5	短期金利上昇	0	0		
6	短期金利低下	687	670		
7	最大値	8,119	7,082	2,679	2,509
		ホ		ヘ	
		当中間期末		前中間期末	
8	自己資本の額	41,550		40,072	

該当のない項目については記載を省略しております。

索引 (法定開示項目)

このディスクローチャー資料は、銀行法施行規則第19条の2及び同規則第19条の3に基づいて作成しておりますが、同規則における各項目は以下のページに掲載しております。

■銀行の単体情報

1. 銀行の概況及び組織に関する事項	
イ 株主に関する事項	43
2. 主要な業務に関する事項	
イ 営業の概況	20
ロ 主要な業務の状況を示す下記指標	
① 経常収益	29
② 経常利益	29
③ 中間(当期)純利益	29
④ 資本金及び発行済株式の総数	29
⑤ 純資産額	29
⑥ 総資産額	29
⑦ 預金残高	29
⑧ 貸出金残高	29
⑨ 有価証券残高	29
⑩ 単体自己資本比率	29
⑪ 従業員数	29
ハ 業務の状況を示す下記指標	
《主要な業務の状況を示す指標》	
① 業務粗利益、業務粗利益率、業務純益、実質業務純益、コア業務純益及びコア業務純益(投資信託解約損益を除く。)	29,35
② 資金運用収支、役員取引等収支、特定取引収支及びその他業務収支	35
③ 資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び資金利鞘	36
④ 受取利息及び支払利息の増減	37
⑤ 総資産経常利益率及び純資産経常利益率	36
⑥ 総資産中間純利益率及び純資産中間純利益率	36
《預金に関する指標》	
① 流動性預金、定期性預金、譲渡性預金及びその他の預金の平均残高	38
② 定期預金の残存期間別の残高	38
《貸出金等に関する指標》	
① 手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高	39
② 貸出金の残存期間別の残高	40
③ 担保の種類別の貸出金残高及び支払承諾見返額	39
④ 使途別の貸出金残高	39
⑤ 業種別の貸出金残高及び総額に占める割合	40
⑥ 中小企業等に対する貸出金残高及び総額に占める割合	39
⑦ 特定海外債権残高	40
⑧ 預貸率の中間期末値及び期中平均値	39
《有価証券に関する指標》	
① 商品有価証券の種類別平均残高	41
② 有価証券の種類別の残存期間別の残高	41
③ 有価証券の種類別の平均残高	41
④ 預証率の中間期末値及び期中平均値	41
3. 業務の運営に関する事項	
イ 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況	8~11
4. 財産の状況に関する下記事項	
イ 中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書	30~31
ロ 債権のうち次に掲げるものの額及び①から④までの合計額	
① 破産更生債権及びこれらに準ずる債権	34
② 危険債権	34
③ 三月以上延滞債権	34
④ 貸出条件緩和債権	34
⑤ 正常債権	34
ハ 自己資本の充実の状況	44~53
二 次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益	
① 有価証券	42
② 金銭の信託	42
③ 銀行法施行規則第13条の3第1項第5号イからホまでに掲げる取引	42
● 金融先物取引等(該当なし)	
● 銀行法第10条第2項第14号に規定する金融等デリバティブ取引(該当なし)	
● 先物外国為替取引(該当なし)	
● 有価証券店頭デリバティブ取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引又は外国市場証券先物取引(該当なし)	
● 有価証券先物取引又は外国有価証券市場における有価証券先物取引と類似の取引(該当なし)	
ホ 貸倒引当金の中間期末残高及び中間期中の増減額	40
ハ 貸出金償却の額	40
ト 金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受けている場合にはその旨	18

③ 三月以上延滞債権	34
④ 貸出条件緩和債権	34
⑤ 正常債権	34
ハ 自己資本の充実の状況	44~53
二 次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益	
① 有価証券	42
② 金銭の信託	42
③ 銀行法施行規則第13条の3第1項第5号イからホまでに掲げる取引	42
● 金融先物取引等(該当なし)	
● 銀行法第10条第2項第14号に規定する金融等デリバティブ取引(該当なし)	
● 先物外国為替取引(該当なし)	
● 有価証券店頭デリバティブ取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引又は外国市場証券先物取引(該当なし)	
● 有価証券先物取引又は外国有価証券市場における有価証券先物取引と類似の取引(該当なし)	
ホ 貸倒引当金の中間期末残高及び中間期中の増減額	40
ハ 貸出金償却の額	40
ト 金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受けている場合にはその旨	18

■子会社等との連結情報

1. 銀行及び子会社等の概況に関する事項	
イ 銀行及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成	19
ロ 子会社等に関する事項	
① 名称	19
② 営業所又は事務所の所在地	19
③ 資本金	19
④ 事業の内容	19
⑤ 設立年月日	19
⑥ 銀行が所有する子会社等の株式等の割合	19
⑦ 銀行の一の子会社等以外の子会社等が所有する当該一の子会社等の株式等の割合	19
2. 銀行及び子会社等の主要な業務に関する事項	
イ 営業の概況	20
ロ 主要な業務の状況を示す下記指標	
① 経常収益	21
② 経常利益	21
③ 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	21
④ 包括利益	21
⑤ 純資産額	21
⑥ 総資産額	21
⑦ 連結自己資本比率	21
3. 財産の状況に関する下記事項	
イ 中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書及び中間連結株主資本等変動計算書	22~23
ロ 債権のうち次に掲げるものの額及び①から④までの合計額	
① 破産更生債権及びこれらに準ずる債権	28
② 危険債権	28
③ 三月以上延滞債権	28
④ 貸出条件緩和債権	28
⑤ 正常債権	28
ハ 自己資本の充実の状況	44~53
二 連結財務諸表規則第15条の2第1項に規定するセグメント情報	21
ホ 中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書及び中間連結株主資本等変動計算書について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受けている場合にはその旨	18

■自己資本に関する開示事項

自己資本の構成に関する開示事項	44~45
定量的な開示事項	46~53